

認定看護師シタター



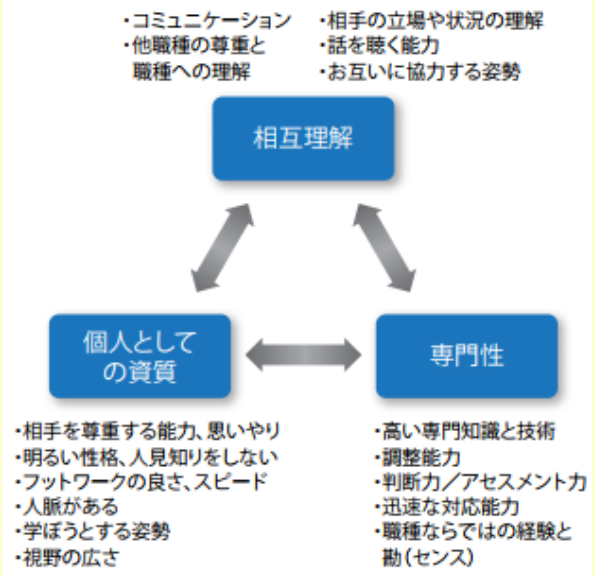
認定看護師室：2018年2月発行 Vol.49 担当：救急看護認定看護師 具志陽宏

2017年の救急看護学術集会で講演された**専門職連携実践**(インタープロフェッショナル・ワーク：IPW)について情報共有し、今一度看護師の役割について考える機会になればと思いこの内容を取り上げました。日本看護協会は、今後の社会保障制度改革を見据えたビジョンの1つとして、地域包括ケアシステムの構築を掲げています。この地域包括ケアシステムを運営していくためには専門職連携がカギを握ります。

私たち看護職は、「医療」を提供する専門職として、患者の病態を把握する力、暮らしの場において看護を提供する力、チーム医療・チームケアをマネジメントする力等が求められます。

現在、院内で私達が取り組んでいる退院支援もその1つです。転院に向けた後方施設の選択やケアマネージャーとの連携も専門職連携実践といえます。各専門職と連携しチームとして機能することで、お互いの強みを最大限に活用することができ、選択の幅を広げることができます。つまり、同じ目標に向かって協働することは最大の効果をもたらすことになります。

連携に求められる能力として、「**専門性**」・「**相互理解**」・「**個人としての資質**」が挙げられます。私は救急看護認定看護師として、医療機関内を中心に急変時のシミュレーションや体位ドレナージ、人工呼吸器管理中の看護を実践しています。職種ならではの経験や専門知識、判断力の他に、協働する多専門職の仕事を理解することも重要です。お互いに情報を共有し、問題の早期解決や不安の解消にも繋がっています。



「みるみる」2015年 Vol.2より引用、一部改編



今後も医療は高度化し、専門性も細分化することが予測されます。

今回、「専門職連携実践」について学習することで、改めて私自身、看護師としての役割認識や自己研鑽の重要性、医療政策に関する情報収集は大切だと考える機会になりました。

みなさんはいかがでしたか？